

第1回島田市教育環境適正化検討委員会【議事概要】

●日時：平成29年5月15日（月）15:30～17:05

●場所：島田市役所4階 第3委員会室（北）

●出席者

【委員】武井敦史（委員長）、池ヶ谷俊幸（副委員長）、福田秀樹、伊藤健太郎、藤本敏彦、良知克明、森山佳久、小島忠光、伊藤冬久、畑浩、中村延也 【事務局】濱田和彦、畑活年、鈴木龍彦、池谷英人、和田英弥、廣田豊和

●【議事概略】

教育長あいさつ

趣旨説明（事務局）

委嘱状交付及び委員長・副委員長の選出

教育長より委嘱状が交付され、委員長に武井委員、副委員長に池ヶ谷委員が選出された。

各学校・地域の実情等について（各委員の意見の一部）

- ・県内ほかの地域でも適正化の動きがある。その背景は「少子化問題」「高度成長期に建築の校舎の耐用年数の限界」である。そのような中で、島田市内の学校の地域と結びついた素晴らしい取り組みを残し、どうやって地域を活性化させ、教育環境をよりよいものにしたらよいか、本委員会の役割を果たしていきたい。
- ・今年、小学校の複式のクラスが一つ増えたが、様々な面で地域がサポートし、「太鼓」と言う子供たちの文化が地域と繋がり、複式の中でも子供たちが育つのを実感している。
- ・複数の小規模小学校から成り立っている中学校だが、それぞれ地域と繋がり特徴をもっている。その中学校の人数でさえも年々減っており、児童生徒の教育環境という面で議論していきたい。
- ・小学校のPTAも、保護者が減ってきて負担が増えている。変えることはすごく苦勞があることで反発もあるが、自分たちの孫の代のためにも今変えなければならないと思う。最近、保護者から今の小学校へ行かせたくない、今の中学校へ行かせたくないという声がある。自分の学校だけ頑張っても次には繋がらず、周辺の全ての小・中学校が協力していく必要があると思う。
- ・中山間地の学校は地域の色々なものを小学校が一手に引き受けている。将来の子供のことを考えると、小規模や大規模のそれぞれのメリットはあるものの、もし統合するのであれば小中一貫校というものに議論の余地があると思っている。
- ・小規模のいいところもたくさんあるが、一番のデメリットは、教員の数が減り仕事量が増え、部活の数がどんどん減っていくこと。小規模校のメリットはあっても、将来的には子供のためにある程度の統廃合はやむをえないと思う。
- ・子供が育っていくためにはある程度の人数は必要だと思う。例えば1クラス10人でも、男女が2：8であれば、同級生男子がずっと1人しかいないことになる。小規模校で「みんな仲がよい」「縦の繋がりがあがる」…というが、横のつながりも重要だと思う。近所で1年生が毎日一人だけで帰ってくるのを見て「小規模校はいいなあ」とは言えないと思う。子供たちではどうにもできないことなので、自分たちが先のことを考え変えていきたい。
- ・統合という問題は、みんなの話をどのようにまとめていくかが一番難しい。これからは、そういった面を含めて話をしていけないといけない。この会の話を地域に伝え浸透させていきたい。